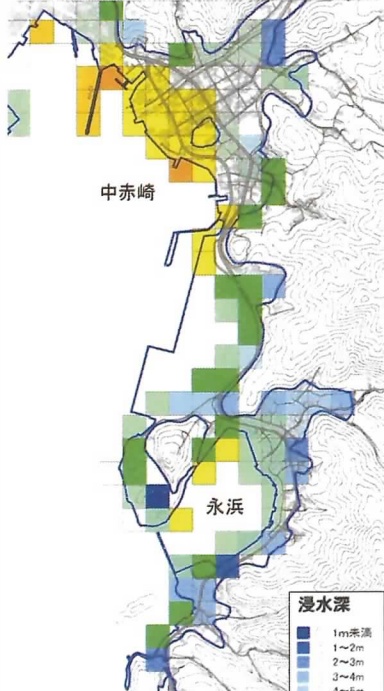
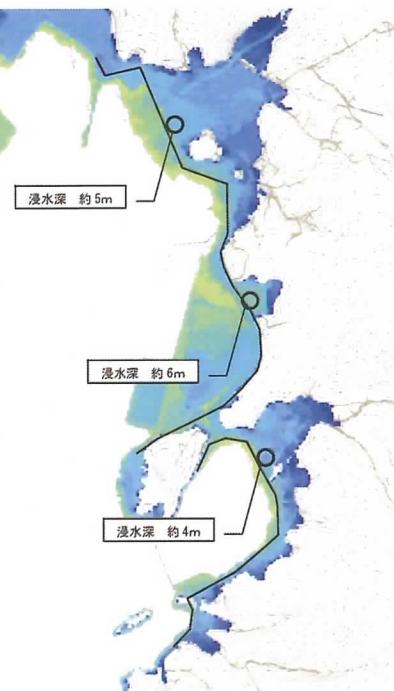
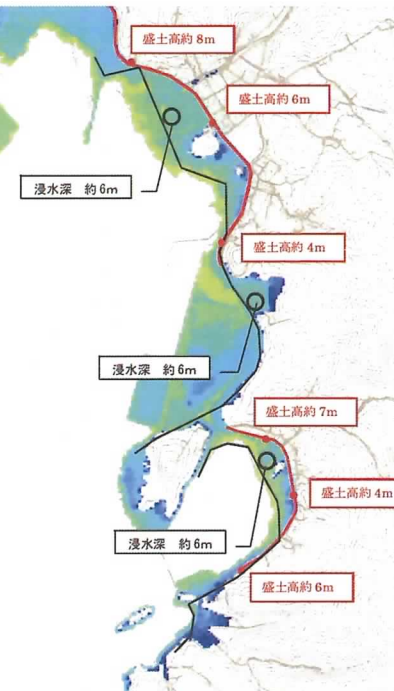
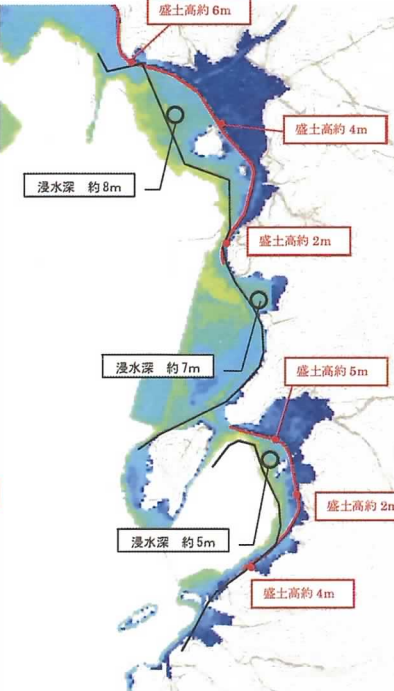


■赤崎地区①（中赤崎・永浜）

この資料は、国及び岩手県における海岸保全施設の整備目標の検討状況を踏まえ、大船渡市が土地利用方針の検討のために実施した津波シミュレーションであり、今後、整備目標の決定や予測計算結果の精査、関係機関との調整によって変更になる可能性があります。

検討ケース	1. 3/11 時の津波（今次津波）の浸水深【浸水結果】	2. 防潮堤のみ整備の場合の津波シミュレーション (既往最大津波(東日本大震災津波)の場合)	3-1. 防潮堤+道路嵩上げ整備の場合の津波シミュレーション【道路嵩上げで止めるケース】	3-2. 防潮堤+道路嵩上げ整備の場合の津波シミュレーション【浸水深 2m まで許容するケース】
図面	 <p>中赤崎</p> <p>永浜</p> <p>※100m メッシュ</p> <p>浸水深</p> <ul style="list-style-type: none"> 1m未満 1~2m 2~3m 3~4m 4~5m 5~6m 6~7m 7~8m 8~9m 9~10m 10~11m 11~12m 12~13m 13~14m 14~15m 15m以上 	 <p>浸水深 約5m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>浸水深 約4m</p> <p>※10m メッシュ (湾口防潮堤 T.P.+10.4m、防潮堤 T.P.+7.2m)</p>	 <p>盛土高約8m</p> <p>盛土高約6m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>盛土高約4m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>盛土高約7m</p> <p>盛土高約4m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>盛土高約6m</p> <p>道路嵩上げの高さが最低T.P.+9.0mあれば、背後の浸水を防げる。</p>	 <p>盛土高約6m</p> <p>盛土高約4m</p> <p>浸水深 約8m</p> <p>盛土高約2m</p> <p>浸水深 約7m</p> <p>盛土高約5m</p> <p>浸水深 約5m</p> <p>盛土高約2m</p> <p>盛土高約4m</p> <p>道路嵩上げの高さがT.P.+7.0mで、背後の浸水深が2mとなる。永浜地区は浸水深2mを超える。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> 湾口防潮堤 (T.P.+10.4m)、防潮堤 (T.P.+7.2m) の整備にあわせて、道路嵩上げを約4~8m行うことで浸水を防ぐことができる。 中赤崎地区は浸水深を2m程度許容した場合、道路盛土高が約4m程度になる。 永浜地区は防潮堤高 (T.P.+7.2m) と同等程度の高さまで道路嵩上げ (T.P.+7.0m) を行った場合でも、背後の浸水深が2mを超える。また、急峻な地形が海岸部まで及んでいることから、道路の嵩上げを高くすると平地が少なくなるため、道路の嵩上げを行わないものとする。 			

— : 防潮堤の位置 (シミュレーション上の想定) — : 道路嵩上げの位置 (想定)

■赤崎地区①（中赤崎・永浜） ※道路嵩上げ位置変更

この資料は、国及び岩手県における海岸保全施設の整備目標の検討状況を踏まえ、大船渡市が土地利用方針の検討のために実施した津波シミュレーションであり、今後、整備目標の決定や予測計算結果の精査、関係機関との調整によって変更になる可能性があります。

検討ケース	1. 3/11 時の津波（今次津波）の浸水深【浸水結果】	2. 防潮堤のみ整備の場合の津波シミュレーション (既往最大津波(東日本大震災津波)の場合)	4-1. 防潮堤+道路嵩上げ整備の場合の津波シミュレーション【道路嵩上げで止めるケース】	4-2. 防潮堤+道路嵩上げ整備の場合の津波シミュレーション【浸水深2mまで許容するケース】
<p>図面</p>	<p>中赤崎</p> <p>永浜</p> <p>※100m メッシュ</p> <p>浸水深</p> <ul style="list-style-type: none"> 1m未満 1~2m 2~3m 3~4m 4~5m 5~6m 6~7m 7~8m 8~9m 9~10m 10~11m 11~12m 12~13m 13~14m 14~15m 15m以上 	<p>浸水深 約5m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>浸水深 約5m</p> <p>※10m メッシュ</p> <p>(湾口防波堤 T.P. 10.4m, 防潮堤 T.P. 7.2m)</p>	<p>盛土高約 8m</p> <p>盛土高約 6m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>盛土高約 4m</p> <p>浸水深 約6m</p> <p>盛土高約 7m</p> <p>浸水深 約7m</p> <p>盛土高約 4m</p> <p>盛土高約 6m</p> <p>※10m メッシュ</p> <p>(湾口防波堤 T.P. +10.4m, 防潮堤 T.P. +7.2m)</p> <p>道路嵩上げの高さが最低T.P. +9.0mあれば、背後の浸水を防げる。</p>	<p>盛土高約 6m</p> <p>盛土高約 4m</p> <p>浸水深 約8m</p> <p>盛土高約 2m</p> <p>浸水深 約7m</p> <p>盛土高約 5m</p> <p>浸水深 約5m</p> <p>盛土高約 2m</p> <p>盛土高約 4m</p> <p>※10m メッシュ</p> <p>(湾口防波堤 T.P. +10.4m, 防潮堤 T.P. +7.2m)</p> <p>道路嵩上げの高さがT.P. +7.0mで、背後の浸水深が2mとなる。永浜地区は浸水深2mを超える。</p>
<p>考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> 湾口防波堤 (T.P. +10.4m)、防潮堤 (T.P. +7.2m) の整備にあわせて、道路嵩上げを約4~8m行うことで浸水を防ぐことができる。 中赤崎地区は浸水深を2m程度許容した場合、道路盛土高が約4m程度になる。 永浜地区は防潮堤高 (T.P. +7.2m) と同等程度の高さまで道路嵩上げ (T.P. +7.0m) を行った場合でも、背後の浸水深が2mを超える。また、急峻な地形が海岸部まで及んでいることから、道路の嵩上げを高くすると平地が少なくなるため、道路の嵩上げを行わないものとする。 			

— : 防潮堤の位置 (シミュレーション上の想定) — : 道路嵩上げの位置 (想定)